

1	審議会名	真田地域協議会
2	日 時	平成26年6月25日(水) 午後7時00分から午後9時00分まで
3	会 場	真田地域自治センター3階 301会議室
4	出席者	一之瀬勤委員、小林史夫委員、小林満子委員、小宮山民夫委員、重野寛子委員、竹村昇吉委員、竹村尚美委員、田中新平委員、長崎伊登子委員、長崎理恵子委員、中村泉委員、縷澤剛史委員、藤沢累美子委員、堀内朝子委員、松井よし枝委員、三井秀雄委員、宮下俊哉委員、村田眞理委員、若林正徳委員 【欠席委員】1名
5	市側出席者	高橋センター長、藤沢地域振興課長、山宮市民生活課長兼健康福祉課長、滝澤産業観光課長、依田建設課長、佐藤上下水道課長、柳沢教育事務所長、柳沢真田消防署長、飯島地域政策係長、西澤主査、伊藤主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	2人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年7月22日
協 議 事 項 等		
1	開 会	(小林史夫 副会長)
2	会長あいさつ	(三井会長) お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。できるだけ皆さんの発言する時間を多く取りたいと思います。できるだけ早く分科会に分かれて、その中でご審議いただきたいと思います。この会の難しさは、皆さん感じてきたと思います。どこのところを狙うかというところがとても大事です。大きなところを狙っても実現しませんし、小さなところでは、この地域の皆さんの要望に応えられないということになります。まずは認識をあわせたいと思います。その中で、テーマをできるだけ早く絞って、皆さんの中でご審議いただいて、早く結果を返すためにはという気持ちで進めさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。
3	センター長あいさつ	(高橋センター長) ただいま副会長からもお話がありましたが、昨日と今日に雹が降りました。傍陽方面で果樹に被害が出たということがございます。今日は赤井の方で少し降ったということございまして、被害に遭われた農家の皆様におかれましては、お見舞いを申し上げます。 日本代表のサッカーワールドカップは終了しましたが、真田地域におきましては、2016年NHK大河ドラマ、2019年にはラグビーのワールドカップが日本で開催されます。立て続けに大きな出来事が待ち構えております。限られた時間、期間の中でいかにお客様をお迎えする体制に整えていくか、大きな真田地域の課題となっております。委員の皆さんのお知恵やお力をお借りしながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
		(小林史夫 副会長) 事務局より連絡があります。 (事務局) 前回の第2回協議会の際に、菅平高原観光協会の団体推薦による丸山委員の後任として縷澤剛史(たけし)さんが委員になられるということでしたが、本日から正式に委員ということになります。よりよい真田地域づくりにご一緒をお願いしたいと思います。
4	協議事項	(三井会長 進行) (1) 前回協議決定事項について ～事務局から説明～ (2) わがまち魅力アップ応援事業の審査方法等について

～事務局から説明～

【質疑・意見等】

(会長) 協議会へかける前に、一旦事務局で評価はされるのでしょうか。

(事務局) 評価自体はしませんが、提出された書面の間違いや、補助対象外と思われる事業については指導させていただき、再提出していただくようにしていきます。

(会長) 委員のみなさんには、書類を見ていただいて、順調に審査できるようにしていただけるということですね。

(事務局) そうです。

(会長) 他に御質問や御意見はありますか。

(副会長) 質問ではありませんが、体験談として話させていただきます。この事業の審査は前年度の協議会でも実施しておりますが、非常に審査は難しいです。皆さんにお願いですが、事務局から選考申込書が送付されてきたら、よく読んできてください。読んできていただかないと評価ができません。よろしくお願いします。

(委員) 私達に送付されてくる資料は、団体の方が提出された資料がそのまま送付されてくるのですか。それを見て読んでおくということですか。

(事務局) そうです。一連の書類を送付させていただきます。当日は、実際に申請される方が説明しますので、その資料を基に説明していただくようになります。

(3) 関連知識レベルアップ・スタディ

(会長) 我々のこれからの進め方において関係しますコミュニティということについて、〇〇委員から説明があります。よろしくお願いします。

～〇〇委員から説明～

【質問】

(会長) 皆さん質問はありますか。我々の協議会の中で、地域づくりとコミュニティということになるのですが、どういうコミュニティが考えられますか。

(委員) 一つのコミュニティとして、地域協議会の中で出来ることでしょうか。

(会長) そこをお聞かせください。

(委員) 地域にどんな資源が眠っていて、どんな人がいるかということ、みんなでテーブルに出しあって、力を活かせるようにしたいということと、新しい資源開発といましようか、地域でなにができるのか、さらにもっと連携や協働ということで、課題とかを共有して話し合うということ、みんなで解決できるようなことができればいいのかなと思います。

(会長) いまはコミュニティということが難しい時代なので、今は誰かがきっかけを作らないと出来ないということが地域づくりの中で結構難しい課題といましようか障害となっていると思います。その辺はどうでしょうか。

(委員) いまはコミュニティというのは変化してきていると思います。例えば一人暮らしでもいろいろなサービスを受けられて、なんとか一人でも暮らしていけるとか、テレビが寂しさをごまかしてくれるとか、近くの人とは縁が薄かったとか、そんなようなことがある。そういったところで、地域へ出てきてみんなでやるのが楽しいというような場所作りとか、自分も行ってみたらお互い同じ課題をもっていたんだなと、参加してよかったなというような場作りが必要だと思います。

(会長) 人間の輪、繋がりを作るための集まる場所、これは〇〇委員も同じ話をしていました。〇〇委員、御意見ありますか。いろいろな団体との連携などの話をしていただければと思います。

(委員) 例えば上田市でありましたら、選挙によって市長や市議会議員が選ばれているわけで、本来当然のことながら主軸として運営していくのは、市長・市議・行政という大きな役割を果たすことは間違いがない。地域協議会は何ができるのかなと考えたら、手の届かない隙間を埋めるというようなところが地域協議会の役割になるのではなかろうかなと思います。コミュニティの大きな団体、例えば商工会議所であるとかは、市の方でも把握されていると思いますけれども、お祭りのときに、着ぐるみ着ているような小さい団体というは市の方では把握しづらいと思います。小さい団体の皆さんをどういうふうに活用や活躍していただける場を設けるか

というようなことが地域協議会には求められるのではないかと思います。

(会長) 他の方は御意見ありますか。なければ先に進めさせていただきたいと思います。

(4) 協議会のめざす方向とテーマ絞込みについて

(会長) 今日の話の中で、これからの進め方において、皆さんの方で同意といたしましょうか、意見を求めて方向性を決めて進めていきたいと思います。

～会長から資料に沿って説明～

(会長) 行政・事務局にお聞きしたいのですが、いままで提言書それから報告書といわれるものが、どのように活用されてきたか、或いはどのような内容であるならばより実現的なものになっていくか、これを作る上でのポイントいいでしょうか、そういったものを提示したあとのことから我々に助言していただけるとありがたい。すなわちこの提言書といわれるものは、行政と協働ということになりますと、いろんなアンケートからだけではなくて、行政の方の執行部隊のところにおいて、ある程度一致したものであったほうがいいかどうか、どうでしょうか。というのは、いままでいろいろと提言書を作ってきたと、ところがなかなか回答が遅かったり、或いは活かされなかったりしたケースがあったということで、その辺を改善したいということでお聞きしています。

(藤沢地域振興課長) 第1期からの協議会の意見書、並びに分科会以降の報告書について、どのように活かされているかということでしょうか。要するに実現性が可能な形にもっていくにはどういう形でとりまとめればいいのかということでしょうか。

(会長) 市の方ではどういったものの方が取り上げてくれるのか。ざっくばらんをお願いします。

(藤沢地域振興課長) 先に結論が見えてしまっているような気がしないわけではないのですが、違った意味で、この協議会というのは結果ありきでなくてもいいのではないかと思います。プロセス、過程が大事であって、それがどういう形で今後地域に活かされていくのかというのが、大事ではないかと思います。例えば第1期では図書館の話が出まして第2期に継続して、いま結果あるとおり出来ました。それ以降も地域における観光の推進、創意工夫の地域づくりの推進など意見書として出して頂いたものがどういった形で結果が出ているかということ、例えば地域づくり委員会ですね。平成24年度に要綱を改正しまして、地域の課題を検討する場とする内容にする。観光でありますと、ゆきむら夢工房のバス停設置、それからトイレ、そういったものが一つずつ実施されてきたわけです。お屋敷の周遊バスとかゆきむら夢工房の電動自転車の配置といったものに活かされております。協議会でいろいろ話し合われたことが意見書であろうが報告書であろうが、行政としてもそういった意見を尊重する中で、出来ることと、出来ないことがあります。或いはお金がなければできないこと。そういった中で、行政としてきちんと皆さん方の意見を尊重した形の中で扱っておりますということで御理解いただければありがたいと思います。

(会長) わかりました。やはり我々が努力したものが活かされるような形になっていけばいいと思います。

～会長から資料に沿って説明～

(会長) 説明した内容をもとに皆さんから御意見をいただきたいと思います。テーマの絞り方も含めて審議及び協議をお願いします。次回は大きくこういったものをテーマの中に入れていきたいというカテゴリを決めます。その中でいくつかのアンケート、課題、そういったものが入っていきます。そういったものをまとめて、現実的なテーマということ絞ってもらいたいということを分科会でやったらどうかということになります。それから、いまの中にコミュニティだとかビジョンだとかそういったことも出てきていますので、その辺も含めて皆さんから御意見をいただいて、それを絞っていきたいということ。それから皆さんの個々の想いがありますので、そういったものを分科会の中で、専門のところ活かしていただきたいということ。アンケートの集計結果について私が感じるのは、協議会の動きといわれるものが、注目されているということがどうも私としては感じてまして、そういう点では我々の中で提言書を作るだけではなくて、我々自身がなんらかの市民に対するイベントなり動きといわれるものも必要なのかなと思います。ただし、労力と予算というものがありませんので、その辺のところをどうするかというこ

ともあります。こういった進め方において行政側としてはどうでしょうか。行政と協働ということになっていますので。

(藤沢地域振興課長) 進め方のことでしょうか。

(会長) そうです。

(藤沢地域振興課長) 今の会議は全体会となりまして、今後、分科会に入っていくと思います。そうしますと職員がそれぞれ分科会に入って数名ほど配置されます。いろいろ行政としての情報提供の面で行政に聞きたいことがあればそれに対して答えるというような形で進めております。例えば、協議会の方で或いは分科会の方で資料提供や調べて欲しいという内容についても、次回に向けて資料等を用意することになります。そういった形の中で、協議会あるいは分科会を進めていきます。

(会長) 我々は行政の附属団体ということになりますし、我々自身が実際に実行することになると、お金がかかるということになります。

(藤沢地域振興課長) 協議会自体は実行団体ではありませんので、あくまで市の附属機関となります。実行団体ではありませんので、いろいろな団体に対しての働きかけなどそういったことをしていただければいいのではないかと思います。

(会長) 協議会としてセミナーとかを開くとなった場合、どんな形で進められるのでしょうか。

(藤沢地域振興課長) 協議会の勉強会という形でいいのでしょうか。

(会長) 市民を交えて開催したい。例えば「真田丸」の放映が始まるといままでそういうことがあった地域がどう変わったのだろうかということ、そちらの地域の方に来てもらって話を聞いて、とうようなもの。

(藤沢地域振興課長) いわゆる市民向けとうことですね。それは協議会からご提言をいただいた中で、行政として、ソフト事業になります。そういう形で進めていくことになります。現在はまだ白紙の状態ですけれども、そういった形で取り組めると思います。

(会長) 皆さんどうでしょうか。そんな形で絞っていきたいと思います。

(副会長) いま会長からお話があったのですが、みなさんお判りになりましたでしょうか。大変いいことはやっているといると思うが、たいへん難しいのではないかと私は思っています。皆さんのどのくらい理解ができたかということで、それによって前に進めるにはどうやっていいのかということ私達が考えなければならぬ。皆さんがこの説明を聞いてどうか、意見がありましたら発言していただければと思います。

(会長) この協議会は決まった形ではなくて、我々の出来る範囲のものをある程度自由に決められているとう協議会になっている。ですから皆さんからいろいろと御意見をいただいて、その中でどの辺のところを狙っていくかということを決めたいということです。

(副会長) これだけでは先が見えていないと思います。もうちょっと具体的になったならば、皆さんが話しやすくなるという気がします。皆さんからアンケートをだしていただいたものを基にしながら協議を進めていくという方向でありますが。

(会長) ひとつのやり方としては、アンケートが集計されています。それから地域まちづくり方針ができています。こここのところ例えば農業だとか観光だとか、こういったものが必要なのか議論して、これらについて一つの分科会を作りましようとなります。その中でいろんなアンケートの中から一つや二つにまとめるなり絞るなりして、分科会のテーマはこれで行きましょうと決めてもらう。それ自体を分科会の中にお預けする。それを全体会の中で確認しながら、分科会の中でさらにそれを詰めていくという、こういった一つのやりかたがあります。そうでないと20人の委員がいても自分の意見が反映されないことにもなりますし、なかなかまとめていく上におきましても20人一緒ということは難しいと思います。そのために地域まちづくり方針があるんですね。ですからこれをベースに或いはキーワードで或いはいまおかれている状況からテーマを決めていくということで、皆さんの御意見をいただきたいのです。あくまで、いま出したのは一つの案、たたき台であります。

(委員) 今年から初めて参加させてもらうので、いままではどうだったかとうことがわからないのですが、全体会と分科会というのは、月1回2時間で委員が集まって全体会をやり、それとは別に分科会が開かれるということでしょうか。

(副会長) 去年までは第1・第2・第3分科会までありまして、最初に全体で集まって、あいさつや連絡事項があって、それから各分科会に分かれて話し合います。時間は7時30分ごろから9時で終わる分科会もありますし、8時30分で終わる分科会もあります。その分科会の中でテーマを決めていきますので、それぞれの分科会で話すテーマが違ってきます。テーマによっても違うし内容によっても違いますが、それは分科会によってお任せです。それから、各分科会で意見書を作成して、それを全体会で発表してきています。

(会長) 分科会の中で必要ならば、別々に開催してもいいのですが、手当ての予算というものがあります。分科会で必要でしたらどこかに視察に行くとか、或いは誰かを呼んで話を聞くとかそういったこともできます。

(委員) 例えば、3つ分科会があれば、その分科会は同じ時に別々に話し合うということであれば、一人は一つの分科会に所属するということですか。

(会長) そういうことです。ところが、人によっては積極的な方もいて、別の分科会にも関心があるという委員の皆さんもいらっしゃるかもしれないので、それは皆さんの御意見で、それを認めるかどうかということになります。

(副会長) 実際には無理があります。実際に私達もやってみたらわかるのですが、一つの分科会に所属して、違う分科会の話も聞くことには無理があります。それは理想的かもしれないけど、前回話した内容を継続して話し合っていきますので、途中から違う分科会に入ってもわからないと思います。そうすると入っても意味がないんです。それは現実的ではありません。

(会長) さきほど藤沢課長から話があったプロセスということがとても大事です。やはりこの中で地域のリーダーを作っていくとか、広げるとか、そういったものがとても大事だと思います。ですから今回のスタディもそうですが、その活動そのものといわれるものが当然いいと思っています。やはり地域の要望に応えるというのが一番の任務になります。応えるということは結果を返してあげるといことです。返してあげられるテーマを選ぶというのが的を得たテーマと私は思っています。ですから的を得たテーマということにおいては、まず理想的なものがあるって、そこからいろいろな制約から縮小するという方法をとりたいということです。われわれの立場としては、最初から絞って考えてしまうのではなくて、これは理想だけれど、現実的には資源を考えて決めていくという方がいいだろうと思います。調査・アンケートの集計量においては、私はこれで十分だと思っています。みなさんにもそれはお話ししましたが、それぞれの代表としてきていただいています。20名の方々のバックにはものすごい数の人達や御意見が入っていることを捉えて、判断しています。よってこの時点からは絞り込み、抽出するという形、それは現実的な制約からみて資源からみてそれを縮小していくと、或いは段階を踏んで、今年度はこれだということを決めていく手順、私が話をしたのはそんな内容です。〇〇委員さんどうでしょうか。

(委員) 分科会と全体会のあり方ですが、それぞれの分科会がリンクしあうようなものになっていけばいいと思います。全体会の中で、それが一体化できるようなものを皆さんからのアンケートの中から抽出してはいかがかなと思います。例えば、特色ある観光の「真田丸」ということであれば、関連する農業であるとかそれが交通ネットワークであったりするかもしれないですし、それが安心して暮らせる地域づくりということに繋がっていき、リンクしていくような内容を抽出していったらどうかと思います。例えば、真田丸では、放映した時だけよくて、その後地域になに残るのだろうということを考えたときに、放映が終わっても自分達が住んでいて暮らしやすい地域づくりを自分自身でやってきたというような残るものを抽出していったらどうかと思っております。それから協働ということと、行政の方も平等な立場で、自分はこれがいいというようなことを、アンケートの中からでもおっしゃっていただくと非常にわかりやすいと思います。

(会長) 実は私も前々からお話しているのですが、行政サービスにはなかなか手が行き届かないものがあります。そういう点では要望は行政側でとらえているけれどもできない、協働でやらなければならないというものがあるだろうと思います。それがもっとも実現性が高いと思われる課題ということではなくて、問題から課題にあがっているということですから、一応そういう体制には入っているけれど、なんらかの理由でできていないということと思っています。ですか

ら課題ということでできたということは、これは言わないといけないと思っているということになりますので、そういった点においては協働でやるという一番いいモデルだろうと、実現性もあるというふうに思っています。先ほど行政側のほうで皆さんがとっておりましたが、これは協働でやる事業と私は思っています。ですからもっと行政側の方でこういうことをやっていったらということが本来は本業であるのでできていいのではないかと個人的に思っているところです。そういう点では各課の方で出てきている課題というものの中からも当然なにかでてくるでしょうし、一緒にモデルを示していかなければいけないだろうというふうに思っています。皆さん御意見ください。

(委員) 現在、市から雑紙回収ということでスタートしています。その減量化ということに対して協議会として、それをいかに成功させるかということも一番身近なテーマで、肩慣らしのテーマとすればいいかと思う。その事業をいかに成功させるかということを考えて第一歩の提言になれば一つの肩慣らしになると思う。一番簡単なテーマで一番難しいかもしれないけど、一回やれば会の流れというものがつかめると思う。どういう意見がどういうまとめ方をされて、それがどういう形で市に反映して返ってくるかということがわかると思う。そこからまだ2年あるわけだから、そこからいろんなテーマを決めて分科会とか進めていってもいいと思う。

(会長) 行政の方から課題ということで説明の時間をもってないような気がします、これはみなさんどう思いますか。行政側の方から、われわれもいろいろアンケートを実施しましたが、行政側の方からは今年度の予算とか事業について話があったが、課題という中で、説明をお願いしたい。

(藤沢地域振興課長) 1回目の協議会で自治センターの予算概要と課の課題については既にお出ししてお示ししております。

(会長) その中で、特に協議会で関わってやっていくものはありますか。

(藤沢地域振興課長) 行政からお願いするというよりも、協議会の委員の皆さんから、先ほどの雑紙回収袋の話でも非常にいいご提言だなと思ったのですが、行政からこの課題について協議会でぜひともお願いしたというよりも、協議会の皆さんの方から逆に選んでいただくというような方がいいかと思えます。けっしてこの場で協議する内容について行政から押し付けるものではございませんし、過去の第4期までにつきましては、それぞれ真田地域が直面する課題について協議会の方で設定をしていただいて、それによりご協議いただいたという経緯できております。2期目3期目の方はご存知かと思いますが、行政側からこれについてぜひとも協議してくださいということはありません。

(会長) 我々は自主的に拾い上げて行政の方にあげていくのが本来の姿だと思います。次回のときにおきましては、わがまち魅力アップ応援事業の審査ということで1件か2件あって、その後に皆さんの方で配られた資料をもとにいろいろテーマ、或いは進め方等において私の話を一部参考にしていただきながら、テーマを決めていきたいと思っておりますが、どうでしょうか。

(委員) そうはいつでも、協議会の委員さんの中には今年初めての人もいらっしゃいます、流れのわからない方もいらっしゃるの、そんななかで皆さんでお話をして分科会の方針であるとかどういうふうに考えていくかという方針を決めるまでには、恐らくこのままこのような形でやったんでは相当時間がかかってしまうのではなかろうかなと思います。私が思っているのは正副会長と、もし会長の方でご推薦の委員さんがいらっしゃれば何人かで集まっていたら分科会を2、3ぐらいの案としてあげていただいて、たたき台として分科会を作ってみて、委員さんにお示しをして、入っていただいて、2、3ヶ月くらい試してやって、やった上でこれはまずいのではないかと思うところがでてくれば、その時点で少しテーマをどうしようかとか見直しつつ、これでよければ継続してやってみるというのはいかがでしょうか。

(会長) みなさんどうでしょうか。パイロット的に分科会をやるということですね。

(副会長) いまの会長の説明だとみなさん理解が難しいので、どうやっていいかパニックになっています。〇〇委員が言っているように、テーマを設定して、それからスタートして、これはダメ、これを加えようとか、協議会の中で協議していった方がスムーズにいくと思えます。

(会長) いつスタートしていつおしまいというのは基本的にはないと思っておりますので、そういう点ではそんなに難しく考えずに、これはどうみたって真田町においてはいまやらなきゃいけない

いというものは必ずあるはずなので、そういったものを見つけ出して、一つといわずに二つぐらいどうでしょうか。

(副会長) ゴミ問題もありましたが、健康福祉課のほうでも、健診率が低いなどそういうこともなるべく審議にだして、健診を受けてもらうにはどうしたらいいかというようなちょっとしたテーマも検討することも大事なと思います。

(会長) これをベースに深く入っていてもいいと思う。そういう部署の人に来てもらって説明を受けるだとか、いろいろな方法があると思います。

(委員) 分科会の人数、前年度のところでぜひ2、3人でよいかの意見があるのですが、まず分科会は何人ぐらいがいいとか、前年度からの引継ぎでこれは引き続きやってもらいたいテーマがあればそれを優先してもらって、内容については今回アンケートで出た中で、優先順位をだしていったらどうかと思います。

(会長) たぶん継続性があるものにおいては、アンケートの中のでているかと思っています。その中で抽出できるかなということ、やはり人数はあまり少ないとあれなので、分け方として皆さんから御意見をいただきたいのですが、リーダーになる方をどうするかという問題もあります。そういったことも含めて次回の中で、いま出てきているのはパイロット的にいくつか進めてみていう話がでていますが、その中で2、3回を繰り返してその中の状況を報告していただいて他のほうの課題やテーマを決めながら、少し遅れたスタートということで次のプロジェクトを進めていくということも〇〇委員からでています。他に御意見ありますか。

(委員) もしパイロット的にはじめるのであれば、抽出の仕方として、例えば、A4で1枚の資料がありますが、自分がだした意見でない意見でやりたいことをあげていただいて、それを集計してみる。投票的に実施してみる。関連性をみてリンクしそうであれば決めるというのはどうでしょうか。

(会長) それは一つの客観性の見方になりますね。そんな意見もありますし、〇〇委員さんのように何名か指名した中である程度、案を決めるという方法がある。両方でいきましょうか。そうするとこうしたらどうでしょう。皆さんの方でこれは必要だというものをだしていただくと、自分以外のものということで、一点がいいのか二点がいいのかとりあえず出してもらおう。それで、客観的に一つのテーマというものの数の多い少ないが見えてきます。そこに何名かの方が関わってその中である程度絞っていきます。その時においては実行性ということになると、ここがとても大事なんですが、リーダーといわれる人を決めること、我々を含めた選任した中で案を作っているものか、そうではなくてこういう決め方にして欲しいというのがありましたら、最後に御意見をいただきたいのですが。

(委員) 案を作ってもらった方が意見は出しやすいと思います。どのテーマも全部大事なんです。次回は1ヵ月後に協議会が開催されるのですか。

(会長) 次回は1ヶ月後です。

(委員) なんとなくみんなが、わかりつつあるのに、ここで1ヶ月先に再度集計をしていくということは時間が足りない、開きすぎるといえるか、それはどうなのかなと思います。

(会長) たぶんいろんな方がいると思うんですが。早くそういった議論に入りたい方もいれば、なかなか時間がとれない、或いはまだ理解にいたっていない方もいるかもしれません。

(委員) テーマの絞り方というのが一番のテーマだと思う。

(会長) 私はそこに一番時間をかけたいんです。的を得たものでないと、例えば申し訳ないのですが、過去のテーマにおいて20万、30万という人件費をかけて作ったものがどうなるか形だけで終わってしまったとなるとみなさんも力が入らない。さっきのアンケートでは協議会の必要性は感じるけれど結果としていい評価がされていないということになってしまいます。やはり我々は市民に対して応えてあげるといった任務がある。審議することだけではなくて結果ということは必ずついてくる。協働によってということと責任をもっているということは強く言っておきたいです。時間だけを1年2年費やしてということで、さっきのアンケートと同じであるということになってしまう。理想はあるけれどこういったことでいまはできないということではないと。これはどんな立場、組織であったとしても共通。ましてこれからマネジメント・経営ということを市長は考えていますが、それにおいてもまったく共通のことだと思います。

す。期間においては一旦決まっていますので、急に変更することは難しいので、時間はかかるにしても慎重にやっていくということでよろしいでしょうか。ということで皆さん御了解いただきましたでしょうか。

皆さんの方から、1点か2点どういったものをテーマにしたらいいかあげていただいて、それを参考に3役と行政側の事務局と選任させていただいた方も含めて、どういうテーマでいくかということを提示させていただくということでよろしいでしょうか。

【意見・質疑】

- ・なし

【決定事項】

- ・協議テーマの絞込みについて決定

5 その他

次回協議会開催日時について

(副会長) 次回は7月30日(水)午後7時からでよろしいでしょうか。わがまち魅力アップ応援事業の審査がありますので、よく読んでいただくようお願いします。協議の進め方・テーマについては協議をしてどういように進めていったらいいかやっていきたいと思っております。

- ・全員了承

親睦会・懇親会について

副会長から説明

6 閉会